

## 第二回 孫七瓦 いまむかし

## 常務のコラム

今回も私の古い記憶の話です。

私は昭和十七年（1942年）生まれです。八十一歳です。小学校入学が昭和二十四年で、この年には法隆寺の金堂から火が出て、壁画が燃えてしまうという歴史的な火災がありました。当時法隆寺では『昭和の大修理』と云って、何百年ごとかに行われる修理を行っており、日本を代表するような画家が解体される壁画を模写しているときでした。真冬（一月）の極寒の時期でストーブからの火が移った火事だと聞いています。当時の我が家の様子はと申しますと、瓦を造るのにみんな一生懸命でした。私は次男坊でしたので家業に関してこれと云った手伝いはしていません。時々、父親が手の離せない時に自分の愛用しているタバコ（ゴールデンバット）

に「火をつけて持ってきてくれ」と言う事くらいだったのではないのでしょうか。

父（会長）はと云うと、父が高齢（1899年生まれ）であった事もあり、小学校高学年くらいには職人さんに混じって一人前に様々な仕事をしていたように思います。

その頃の風景で特に記憶に残っているのは工場にある瓦を造る機械を真夜中によく稼働させていた事です。日中は停電（特に動力用の電源）になることが多い時代だったため、みんな困っていましたね。停電になると家中ではローソクか石油ランプを使っていたものです。石油ランプのホヤに付く煤（すす）を掃除する煤磨きは子供の仕事でした。それから夏場の夕立も大変だった記憶があります。



瓦は極く柔らかい粘土から形を造る（成形）ので何度も何度も工場の外で乾燥させるので、雨が降れば大変です。夕立でも来れば大騒ぎになります。それから瓦の原料とも云える粘土掘りも大変な仕事です。現在のようにベルトコンベヤーなどは無い時代です、スコップと鍬（くわ）による手作業でした。粘土はこの辺りでは目安、稲葉服部集落などの田んぼの下から掘り出して牛車で運びました。粘土の掘り出しもいつまでも同じ田んぼからでは掘り尽くしてしまうので、違う農家へ掘らせて下さるように交渉に行っていたみたいです。だから田んぼの売買もよくやっていたそうです。出来上がった製品（各種瓦）を運ぶのも牛車でした。農家もそうですが、私の家もずっと牛を飼っていました。当時の牛は瓦の仕事と農業という具合に大活躍でした。

孫七瓦工業株式会社の  
経営理念 II 目的理念

私たちは、日本建築の文化の継承と、伝統を活かした技術革新を通じて社会に貢献します。

## 行動理念

一、私たちは、安全で安心できる快適な住まいのある暮らしを提供します。（科学性）

一、私たちは、社会に信頼される会社となり、地域社会の発展に貢献します。（社会性）

一、私たちは、共に学び、共に育ち、全社員の幸福を追求します。（人間性）

この経営理念は孫七瓦工業株式会社が継続的・計画的に社会に役立つ企業としての根本的な価値基準です。

取り上げてほしいテーマや皆様のお屋根にまつわる体験談・お勤めのカフェや奈良のお勤め情報なども随時募集しております。

まごひち瓦版は不定期発行です、バックナンバーは弊社ホームページでご覧いただけます。

かわら版の送付停止をご希望の方は編集部までご連絡下さい。ご連絡と発送が前後した場合は次号より停止させていただきます。

〒636-0143 奈良県生駒郡斑鳩町神南3-13-13 孫七瓦工業(株) まごひち瓦版編集部

☎ 0745-74-1218 HP <https://www.magohichi.com>